

令和2年度 事業報告書

公益財団法人がん研究振興財団

令和2年度 事業報告書

1. 研究助成事業

- (1) がん研究助成（公募） 26,000千円
第53回がん研究助成審議会の審査を経て、次のとおり研究助成金を贈呈した。

一般課題 A 23名

一般課題 B 6名

- (2) 海外派遣研究助成（公募） 0千円

がんに関する国際会議、国際学会への出席者に対し、海外旅費等の助成を行うものであるが、新型コロナウイルス感染の世界的拡大にともない、海外における入国制限など海外渡航に関わる事業が困難な状況となり、今年度は中止することとなった。

2. 関係団体助成事業 1,000千円

UICC国内委員会の事業に対し、助成を行った。

3. 技術者研修助成事業（公募） 0千円

がん看護等の知識・技術の向上を図るため、コメディカルスタッフの海外研修留学等に対し海外旅費等の助成を行うものであるが、新型コロナウイルス感染の世界的拡大にともない、海外における入国制限など海外渡航に関わる事業が困難な状況となり、今年度は中止することとなった。

4. 革新的がん医療実用化研究推進事業

- (1) がんになっても生きる希望を持てる事業（HOPE事業）

幅広い分野の柔軟な発想を持った若手の人材をがん研究領域に取り込むため、次の助成を行った。

若手、女性研究者の戦略的育成事業

（シニア・リサーチフェロー制度）（公募） 5名 15,000千円

- (2) 「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」課題解決に向けた支援事業

充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした、患者本人や家族が本来の生活の場所で暮らしていく過程で直面する様々な課題解決に関

する研究の支援を行うため、次の助成を行った。

研究助成事業（公募） 一般課題 10名 4,800千円

- (3) 研究成果等普及啓発事業 12,620千円
がん研究の成果を国民にフィードバックする観点から、各種情報媒体を活用し普及啓発に努めた。

① がんサバイバーシップ研究成果発表会・セミナー開催

例年は発表会と共にがんサバイバーシップセミナーを開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大にともないセミナーは中止し、研究成果発表会のみ実施した。

研究成果発表会 令和3年2月3日（水） オンライン開催

② がん研究シンポジウム開催

今年度は、「がんゲノム医療の現状と未来」というテーマで国際シンポジウムの開催を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。

③ がん関連パンフレットの作成配布

- がんの統計 2021 4千部
- がん治療中の食事サポートブック 2020 10千部
- がんを防ぐための新12か条ハンドブック 6千部
- 知っておきたい放射線治療 2千部
- がん治療前の食事のヒント 5千部

5. 多様化する情報ニーズに対応するためエビデンスに基づいた国民への薬物療法等の情報提供支援事業（がん情報提供支援事業）

科学的根拠に基づく情報を迅速に提供するため、臨床試験情報及び薬物療法プロトコール情報等に関する諸問題や個別目標に直接寄与するための事業を実施した。

研究助成事業（公募） 2件 1,840千円

がん情報提供支援事業に基づく研究テーマについて研究助成金を贈呈した。

6. 広報活動事業（一般財団法人日本宝くじ協会助成事業） 27,324千円

がん研究の成果を国民にフィードバックするため、ホームページの充実やパンフレット等を作成し、自治体、学校、保健所及びがん診療連携拠点病院等に配布した。

(冊子名)

○ やさしいがんの知識

肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん

1, 4 1 7 千部

○ がん検診

1, 6 3 6 千部